



【学校教育目標】 社会や人との関わりの中で 真の逞しさを身につけた 児童生徒の育成

令和 5 年 6 月 1 日
京都市立東山泉小中学校
校長 岩田 智典

泉だより No.3



9年生研修旅行を終えて

「この時期、3日間も富士山が山頂までくっきり見えるのは珍しい。」
「先々週、富士山の頂に雪が降り、化粧直した富士山が見られたのは良かったですよ。」9年生の研修旅行の宿泊先のペンションのオーナーさんの言葉です。



「Best Friends Best Memories ～10期生の絆で、喜樂あふれる思い出を～」9年生の研修旅行のスローガンの思いに添えてくれるような、好天に恵まれた研修旅行になりました。



義務教育学校では基本同じメンバーで9年間を過ごすことになります。その9年間というものは、決して楽しいことばかりではありません。また、順風満帆に行くはずもありません。成長段階の中で、友達とうまくいかなかったり、けんかもしたり、疎遠になったりしたこともあるはずですが、9年間の長い年月の中で自分自身も成長し、友達も成長します。自分のものの見方も変わりますし、友達からの見方も変わってきます。過去の良くないことを引きずるのではなく、新しい自分の発見、新しい友達の発見

が出来たとき、新たな人間関係を築くことが出来ます。

コロナ禍の中で、「レジリエンス」という言葉がよく使われるようになってきました。「レジリエンス」とは「回復力」「復元力」「耐久力」「再起力」「弾力」などと訳される言葉で、「困難をしなやかに乗り越え回復する力(精神的回復力)」という意味です。この言葉を義務教育学校の人間関係に当てはめたとしたら、9年間過ごす仲間であるからこそ、この「レジリエンス」の力を身につけるチャンスがあるのではないのでしょうか。



9年生のスローガンは人間の感情を表す四字熟語「喜怒哀楽」から「怒り」「哀しみ」を引いた「喜樂」という言葉が使われています。これは9年生が友達と「折合い」をつけ、「お互いを気遣う」ことが出来ないと達成することは出来ません。研修旅行の最終日、9年生の何人かにこんな質問をしました。「10期生のみennaにとって、研修旅行で得たものとは？」その質問に対する回答が以下です。

「今まで長い時間、ともに過ごしてきて、『こんな友達』と思っていたのに意外な面を知ることが出来た。」

「日常と違う場所で、いろんな体験が出来たおかげで、友達の絆が深まった。思い出がいっぱい出来た。」

「一人では出来ない体験が多かったので、必然と友達と協力する場面が多かった。おかげで今まで話してなかった友達とたくさん話をする事が出来た。」

研修旅行直後の感想は友達に関することばかりでした。美しい富士山の風景と友達との思い出は9年生の心に刻み込まれ、何年経っても何十年経っても忘れることはないでしょう。良い思い出は人の心を強くします。9年生が今回の研修旅行を経験したことで、「東山泉で良かった。」と思えるような日々を送って欲しいと思っています。

